

学校名	佐賀県立鳥栖高等学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	普通科進学校である本校にとって「学力の定着・向上」は最重要課題である。学校に対するアンケート結果では「生徒は、学校生活に十分満足している」に對し肯定的な回答割合は、生徒91%、保護者87%であり、学校生活全体に対しての一定の満足度は得られている。また、生徒の87%が担任との面談は効果があったと回答しており、個に応じたきめ細やかな助言や学習指導等はできている。しかし、自分自身の「家庭学習時間が確保できている」生徒は46%にとどまっており、これについては根本的な改善、自発的な学びを促す仕掛けづくりが急務である。いじめ問題や心の教育については、状況に応じて迅速かつ組織的に対応することができている。また、広報活動の充実を図ること、保護者との連携を積極的に進めることで、更なる開かれた学校づくりを進めていく必要がある。全体として、どの項目についても一定の評価はできるものの、それぞれの課題について継続し、改善を積み重ねていく取組が重要である。
------------------	--

2 学校教育目標	校訓である「知を愛し、和を敬い、心を培え」を踏まえ、高い知性と豊かな人間性、たくましい心身を培い、高い使命感をもって社会の発展に貢献する人材を育成する。 (1) 幅広い知識と深い教養を身に付けさせ、論理的思考力と豊かな表現力を育てる。 (2) 徳養・協働の精神を育み、高い倫理観と公正な判断力を育てる。 (3) 強い意志と健やかな身体を鍛え、自己実現と社会発展に貢献に取り組む態度を育てる。
----------	--

3 本年度の重点目標	①学力の保障（授業を中心とした効率的な指導、ICTを活用した家庭学習やオンライン授業の充実を図る） ②生徒指導の充実（基本的生活習慣を身に付けさせ、ルールを守り主体的に行動できる生徒を育成する） ③進路指導の充実（「キャリアデザイン」を通して進路意識を涵養する） ④人権教育の推進（校内推進体制の充実を図る） ⑤新学習指導要領への対応（新教育課程編成とそれに伴う授業改善策を検討する） ⑥働き方改革への対応（教育活動の質を高めながら働き方改革を実施する）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○家庭学習時間の確保と定着のための学年・分掌間で連携した取組	○低学年時に家庭での学習習慣を確立し、各学年での学習時間目標(学年75分2時間)を達成した生徒の割合を70%以上にする。	・授業での初期指導を徹底し、学習の習慣化に努める。 ・年次回、全学年で学習時間調査や生活アンケート等を実施し、情報を共有して対応策を講じる。 ・担任と生徒の二者面談を積極的に行い、進路相談とあわせて生活習慣改善や学習意欲向上等の助言を行う。	C	・アンケート結果では、家庭学習時間が確保できている生徒は37.8%にとどまっており、中間評価時点から生徒の意識改善は見られなかった。生徒の学習時間確保に向けて根本的な改善が必要であり、自発的な学びを促す仕掛けづくりが急務である。 ・学年が上がるにしたがって、家庭学習の時間も増加している。早い段階で、「家庭学習＝進路目標達成」の意識を高める必要がある。今後とも粘り強く学習指導を行う。家庭学習時間調査は年4回実施しており、そのつど学年取り組みの参考としている。 ・担任の声掛けや教科担当者の仕掛けによって、多くなっているクラスもある。このように今後も課題によるものだけではなく、自発的な学習時間を増やす声掛け・仕掛けをしていく必要がある。	教務部 進路指導部 各学年
	○授業の充実、改善に向けた効果的な取組	○学力向上のための効果的な指導のための授業改善に取り組み、自分の学力や技能が向上していると思う生徒の割合を90%以上にする。 ○各教科で研究授業を行い、教科分析会を実施する。	・常時すべての授業で相互見学可能とする。 ・年2回以上の校内授業見学期間を設定する。 ・年2回の授業評価アンケートの結果をもとに、教科会議で分析し、授業の工夫改善につなげる。 ・可能な範囲で先進校への授業視察の機会を設け、情報を共有してよりよい授業づくりに活かしていく。また、予備校の教員向け講座も活用し、授業力向上を図る。	B	・年間2回の公開授業及び研究授業を行い、中高の境なくお互いに意見交換ができた。各々3年間ではなく、6年間というスパンで指導をしていけるよう今後も取り組んでいきたい。 ・アンケート「指導方法の工夫・改善を図り、生徒の学力向上に努めている」では、生徒71.5%、保護者90.3%が肯定的な意見であった。新課程の授業が始まり、新しい内容に即した授業形態が構築できている。今後とも授業改善に努めていく。 ・他県の先進校視察での取組を参考により良い進路指導が実施できた。また、業者と連携して、3年間を見据えたキャリア教育の体制を整えた。	教務部 進路指導部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○校内または校外の人権・同和教育講演会に参加した教職員の割合を90%以上にする。 ○SNSや個人情報等に関する講演等を通して、情報モラル教育の徹底を図る。	・人権・同和教育講演会、及び各クラスでの人権学習・進路保障HR等を実施し、正しい知識と公正な判断で行動できる態度の育成につなげる。 ・講演会や各教科の授業等で、生徒が情報の取扱やトラブル未然防止について考える機会とする。	A	・人権・同和教育については、年間計画に沿って、全職員で取り組むことができた。今年度より制服が新しくなり、教員・生徒の意識が少し高まっているように感じる。今後とも全職員の人権・同和教育の意識喚起を続けていかなければ、生徒への指導を継続していく必要がある。 ・情報モラル・セキュリティに関しては、本校職員による注意喚起や外部講師による詳しい話を聞く機会、年間を通して定期的に設定した、トラブル発生を未然に防ぐことができた。生徒への情報モラル教育が適切に行われているかのアンケートでも91.7%がそう思うと回答した。	教務部(道徳教育推進担当・人権・同和教育担当) 情報広報部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員の割合を90%以上にする。	・年間2回の生徒保護者向けのアンケートといじめ対策委員会を実施する。 ・担任・学年・生徒指導と連携をとり、学校生活全般においていじめ・体罰防止に取り組む。	A	・生徒指導部の年間目標がいじめ・差別をゼロにしている。年間4回のいじめアンケート等ではいじめの件数はほぼゼロに近い。軽微な事案に対しても学年・生徒指導部が連携をしていじめ対策委員会などを開き、事案が大きなならないように努力できた。また、いじめについては初期対応が大切で、そのい意味ではクラス担任や部活動顧問と連携して指導することができた。 ・本年度はさらにいじめ対策を強化して起こってからの対応ではなく事前にいじめを無くす取り組みを、生徒指導部・学年団・部活動顧問で連携をとりながら実施していきたい。 ・生徒へのアンケートの、いじめ対応に組織的に取り組んでいるかについて、肯定的な答えが81.6%であった。今後指導を継続していきたい。	生徒指導部 各学年
	○書物に親しみ、自己啓発を促す読書指導	○生徒一人当たりの年間貸し出し冊数5.0冊を維持する。 ○図書館の利用を促し、「図書館を学期に1回以上利用している」と回答する生徒の割合を50%以上を目指す。	・長期休み期間は貸し出し冊数を増やす。 ・新刊案内を校内掲示する。(学期に1回) ・図書館だよりを発行する。(毎月1回) ・県立図書館や市立図書館と連携して授業の資料をそろえる。(年1回以上)	B	・図書館利用アンケート結果で「学期に1回以上利用している」と回答した生徒は49.2%とほぼ目標値に達した。さらに多くの生徒が図書館を利用するように、中間結果にも記したような図書館環境の充実と、各教科・学年と連携した図書館利用を考えていきたい。 ・生徒一人あたりの年間貸出冊数については、本年度後半は前年より会議等で図書館を閉館することが多く、パソコンが不調で1、2か月貸出ができてなかったり不便になったりしたこともあって、一人あたり4.0冊程度と例年を下回った。次年度は、回復に向けて対策を講じたい。	図書部 各学年
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒95%以上 ○毎朝朝食をとる生徒の割合を90%以上にする。	・食に関する意識調査を実施する。 ・保健室来室生徒に、個々の状況に応じた指導を行う。	A	・中間評価同様、「健康に過ごすために食事は大切である」のアンケートでは、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した生徒が98.7%であった。実施に「毎日、朝食をとっている」の質問にも、「毎日」という「週に1～2日」を含まない割合は44%あり、食に対する意識も高い。今後も食育に関して、生徒、保護者に向けての啓発活動を継続していきたい。	保健相談部 各学年
	○安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故件数を前年比マイナスにする。 ○集会や各連絡を通して、安全に関する情報を共有し、周知徹底する。	・通学路危険マップを作成し、全生徒に配布することにより、交通事故に巻き込まれない意識を高める。 ・年2回の自転車点検、年1回の交通安全教室のほか、生徒会による呼びかけ、標識募集・看板設置なども随時実施する。	A	・本年度は軽微な接触事故があったが、命に関わるような大事故は今のところ起こっていない。事故は年度当初の12月が多く、特に朝の登校時が事故が多い。今年度の反省として、学校前の大正町から田代中学校までの道路は車・自転車・歩行者が多く、年間を通して20件くらいの交通マナーに関する苦情電話があった。交通事故は命の問題につながるため、ヘルメット着用を推奨すると同時に、一人一人が交通マナーについて遵守できるように指導していきたい。 ・生徒へのアンケートの、交通安全への効果的な指導を行っているかについて、肯定的な答えが91.7%であった。さらによりよい指導を進めていきたい。	生徒指導部 各学年
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、部活動休業日、学校開庁日、学校開庁閉庁時刻等を設定し、時間外勤務時間の縮減とともに、休暇を取得しやすいようにする。 ・時間外勤務時間縮減に向けて、教職員からの声も聴きながら、小さな改善を進めている。	B	・業務削減のために、個人としても工夫改善を試みているというアンケートについては、80.9%の職員がそう思う・ある程度思うと答えていた。しかし時間外在校等時間について、全職員の4～1月の平均は31時間3分で、昨年度同期間の平均と比べ1時間19分の増加であった。学校として役割分担のバランスを図ると共に小さな改善を積み、時間外在校等時間の縮減を進めていきたい。 ・職場は休暇を取りやすい雰囲気であるというアンケートについては、75.0%の職員がそう思う・ある程度思うと答え、今後さらに取りやすい雰囲気を作りたい。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上	・既存の学校バリエット、学校説明会、ネット配信による学校PRについて、本校独自の魅力という視点から内容を随時見直し、改善する。 ・さまざまな行事・活動を充実させるために細かい工夫・改善を行う。	A	・体験入学では県外からも複数参加していただいた。在籍生徒の声を紹介するなど、県内外に本校の魅力を発信することができた。 ・中間評価同様、生徒会主催の学校行事をより良いものにするために、生徒会役員の手伝いを取り入れ、工夫、改善を行いつつ実施することができた。 ・中学生対象の体験入学や、Webやラジオでの配信、校外での進学説明会を開催することで、本校に関する詳細な情報や魅力を発信できた。第2回の進学希望者調査でも倍率1.25倍(R4は1.19倍)とほぼ昨年並の進路希望状況を得た。	教務部 情報広報部 進路指導部 生徒会 各学年
○進路指導の充実	◎生徒の進路意識を高め、進路希望を実現するための適切な指導	○面談での助言が効果的だったと答えた生徒の割合を90%以上にする。 ○第一志望大学合格者の割合を増やす。 ○進路大5名、九州大20名、国公立大120名以上の合格を目指す。 ★キャリア教育の一環として、OBや本校関係者等による講演会を実施する。	・進路検討会や模試分析により、客観的に生徒の学力特性を把握し、面談等での的確な進路指導につなげる。 ・入試問題研究の充実と各種研修会への参加を通して、教科指導及び進路指導の指導力向上を図る。 ・難関大学志望生徒への学習指導について、各教科での工夫改善と全体の情報共有に努める。 ・新教育課程に伴う大学入試変更点について、教職員の情報共有とともに、随時、生徒保護者への情報提供を行う。 ・講演会等を実施し、生徒の進路意識を涵養する。	A	・生徒の87.5%が担任との面談は効果があったと回答。また92.3%が進路実現に効果的な指導ができていると回答しており十分に機能している。特に3年生は早い段階から担任と二者面談を実施し、進路実現に向け適切な指導ができた。 ・感染症対策を十分に行い、2学期末の3講座[九大OB授業・難関大志望講座・理系女子実験体験]を実施して、進路意識向上の一助になった。毎年、異なる講師の先生方を招き、生徒にとって刺激のある講座となっている。 ・学校推薦と総合型選抜で国公立大20名が合格した。共通テストは昨年度より平均点がやや上昇した。鳥栖高生も奮闘し、昨年度以上の国公立大へ出願している。昨年以上の結果を期待すると共に、最後まで粘り強い受験指導を実施する。 ・新課程に向けて、共通テスト「情報」対策として年3回模擬試験を実施した。反省と課題をふまえ、次年度につなげたい。	進路指導部 各学年
○学校に対する生徒・保護者の満足度	○学業だけでなく、部活動やその他の活動に自ら積極的に関わり姿勢を重んじる学校文化の中で、生徒が生き生きと学校生活を送ることができる教育活動	○アンケート「生徒は、学校生活に十分満足している」で肯定的な回答をした割合を生徒・保護者ともに90%以上にする。 ★県内外へ向けて本校の魅力を積極的に発信する。	・部活動の活性化を図り、ボランティア活動、部活動以外の文化的活動、研修会など、様々な分野の活動の場を積極的に紹介していく。 ・生徒の主体的な活動ができるだけサポートするよう努める。 ・情報発信をより分かりやすく、定期的に本校の活動状況が保護者に分かるよう工夫する。 ・こまめな学校HP更新を行い、タイムリーな情報発信に努める。 ・可能な範囲で中学校・学習塾、市町教育委員会等への訪問説明を行い、本校の魅力を伝える。	A	・アンケートの「学校生活に十分満足している」では、肯定的な回答が生徒は95.7%、保護者は91.8%の結果であった。学校行事や部活動など、さまざまな部分で制限なしでの活動を実施することができた。今後も、制限があった頃の経験をうまく取り入れながら、より良い活動にできるよう工夫、改善に取り組んでいきたい。 ・朝立記念会や鳥栖・香椎校、大学の先生によるジョイントセミナーなど、学校の様子をこまめに発信した。同窓会の会報誌などにも、生徒の活躍の様子が伝わるように情報提供を行いたい。 ・通学可能な地域の中学校に出向いて学校紹介を行い、本校の理解を深めてもらうことができた。ラジオ番組では在校生の声を紹介することで、本校により一層の親しみを感じてもらうことができた。	生徒会 情報広報部

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	・本年度は、高校1年生の宿泊研修をはじめ、鳥栖香椿祭やクラスマッチなどの生徒会行事、修学旅行などの各学校行事も含め、すべて計画通りに実施できた。生徒たちも活気づいており、充実した学校生活が過ごせることを実感し始めている。 ・新学習指導要領に基づき指導法や評価についても構築されており、生徒の活動場面も多くなってきた。今後さらに改善を進めていきたい。 ・学校に対するアンケート結果では「生徒は、学校生活に十分満足している」に對し肯定的な回答割合は、生徒95.7%（前年91%）、保護者91.8%（前年87%）であり、学校生活全体に対しての一定の満足度は得られている。しかし、自分自身の「家庭学習時間が確保できている」生徒は37.8%にとどまっており、これについては根本的な改善、自発的な学びを促す仕掛けづくりが急務である。対応の一つとして、次年度より鳥栖高のオリジナル手帳を使用するが、その中で、目標とする生活時間を立てると、自己管理・自己決定ができる環境を整備する。そしてこれまでも同様「担任による関心に応じたきめ細やかな助言や学習指導担任との面談を通して、家庭学習時間の充実を図りたい」。 ・いじめ問題や心の教育、SNS問題については、状況に応じて迅速かつ組織的に対応することができている。今年度より外部講師も積極的に介入し講演を実施した。啓蒙活動も続けた。 ・「業務改善」と「働き方改革」について、時間外在校等時間の平均は、31時間3分で、昨年度比全体として、1時間19分の増加であった。行事等についてコロナ禍以前に回復する中で、小さな改善を積み重ね工夫をしていきたい。 ・どの項目についても一定の評価はできるものの、それぞれの課題について継続し、改善を積み重ねていく取組が重要である。
----------------	--